

会 議 録

- 1 附属機関の会議の名称 「みと好文カレッジ運営審議会」
- 2 開催日時 平成28年7月28日（木）午後2時00分から午後3時30分まで
- 3 開催場所 水戸市総合教育研究所 2階研究室7
- 4 出席した者の氏名
  - (1) 委員 櫻庭紀久子，木本信太郎，平野弥生，高橋教雄，鬼澤真寿，松坂晃，會澤香理，録田幸裕
  - (2) 執行機関 大澤秀樹，古橋賢治，上田航也，小川さつき，小泉雅史，石井智枝，関根和一，比留間範之
  - (3) その他
- 5 議題及び公開・非公開の別
  - ◎ 報告事項
    - (1) 平成28年度みと好文カレッジ運営方針及び主要施策について（公開）
    - (2) 平成28年度みと好文カレッジ事業実施計画について（公開）
    - (3) 平成28年度市民センターにおける生涯学習活動の重点目標について（公開）
  - ◎ 協議事項
    - (1) 市民センター職員への支援・指導の強化について（公開）
    - (2) さきがけ塾第四期生の募集について（公開）
    - (3) その他（公開）
- 6 非公開の理由
- 7 傍聴人の数（公開した場合に限る。） 0人
- 8 会議資料の名称
  - (1) 平成28年度第1回みと好文カレッジ運営審議会
  - (2) 別添資料一覧
  - (3) 平成27年度みと弘道館大学市民センター等事業実績一覧

## 9 発言の内容

委員長 : それでは、早速議事に入らせていただきます。

まず、報告事項(1)平成28年度みと好文カレッジ運営方針並びに主要施策について、事務局から説明をお願いします。

執行機関 : 報告事項(1)平成28年度みと好文カレッジ運営方針並びに主要施策について、別紙平成28年度第1回みと好文カレッジ運営審議会資料1～3ページに基づき説明。

委員長 : ただいまの報告事項を受けて、何か御質問や御意見等ありましたらお願いします。  
何かございませんか。

\_\_\_委員 : (5)のパイロット事業の開発・研究について、現代社会の課題や人づくりをテーマとしたもの、専門性の高い講座など、先進的な講座を開発・研究するとありますが、これは実際どちらが開発・研究されているのですか。

執行機関 : 開発・研究につきましては、みと好文カレッジの職員で行っております。主に、市民センターの職員や社会教育事業を進める職員のための学習プログラムの作成研修会の中で、現代的課題を解決するための解決法といたしました講座を研究いたしまして、市民センター等における研修などでも実施できるように研究いたしております。

\_\_\_委員 : つまり、皆さんたちで研究なされているということですね。

執行機関 : はい。私どものほうで行っております。

委員長 : 私のほうからも質問といたしますか、現在の状況を教えていただきたいのですが。(7)の「あなたも師・達人制度」の活用促進についてということで、昨年度は約330名の登録があるというお話でしたが、現在の登録状況と、いろいろな団体へ紹介するというように、その活用はどの程度進んでいるのか、お話しいただければと思うのですが。昨年度はホームページの動画サイトなどに載せるというようなお話もありましたけど。

執行機関 : 「あなたも師・達人制度」につきましては、昨年度は約330名ほどの登録があるというお話をいたしましたけれども、今は若干増えまして、340名ほどの登録がございます。ただ、PR自体、ホームページや情報誌に基づきながら市民の皆様にご利用の提供をいたしておるところですが、市民センターや市民団体の方々に活用されているということは実際には少ないようでございます。

ただ、実績といたしまして、活用された数字を私どもの方で把握しているわけではございませんので、今後更に「あなたも師・達人制度」の活用が促進されますように、今年度は登録されている講師の皆様方の意向調査を図り、来年度には冊子を作成し、更に市民の皆様にご覧いただきながら活用促進を図ってまいりたいと考えております。

委員長 : その他いかがですか。

ないようでしたら、次に進めてまいります。報告事項(2)平成28年度みと好文カレッジ事業実施計画について、事務局から説明をお願いします。

執行機関 : 報告事項(2)平成28年度みと好文カレッジ事業実施計画について、別紙平成28年度第1回みと好文カレッジ運営審議会資料4～11ページに基づき説明。

委員長 : 報告事項(2)平成28年度みと好文カレッジ事業実施計画について、事務局から説明がありました。御意見等ありましたら、お願いいたします。

\_\_\_委員は生涯学習サポーターもやられていますよね。何か御意見等ございませんか。

\_\_\_委員： サポーターは人数が少なかったですよ。あまり多くはなかったような気がするのですが。

執行機関： 現在 29 名のサポーターがいらっしゃいます。今回第 3 期生の塾生が 15 名いまして、9 月に終了いたしますので、そのうちの 7 割以上の講座を受講した方の中から何名か、サポーターに登録していく予定でございます。

\_\_\_委員： 途中で抜けたりして、だんだん少なくなっていっているような感じを受けるので、3 期生の方が入って増えていければいいなと思います。

委員長： この募集については、どういう方法で市民にお知らせするのですか。

執行機関： 8 月から募集を開始するというので、現在要項を作成しているところです。大体 8 月中旬以降に市民センターなどの公共施設や小中学校に配布する予定です。募集人数 40 名なのですが、ただ配布するだけではなかなか人が集まらないという状況にありますので、ホームページやフェイスブックなどを利用してながら募集を図りたいと考えております。また、私たちを含めまして、サポーター、塾生の方々にも一緒に学習していこうというような声掛けをお願いしてまいりたいと考えております。

委員長： その他、サポーター以外のことでも何かございませんか。

さきがけ塾は住民のリーダー、あるいは地域のリーダーとして、問題を自分たちで解決していこうというスタンスの下、集まっているものと考えておりますので、行政も含めてきちんと確立されることを願っております。

他にございませんか。なければ、報告事項（3）の説明の後に再度気づいたことなどありましたら、お願いしたいと思います。

それでは、報告事項（3）平成 28 年度市民センターにおける生涯学習活動の重点目標について、説明をお願いします。

執行機関： 報告事項（3）平成 28 年度市民センターにおける生涯学習活動の重点目標について、別紙平成 28 年度第 1 回みと好文カレッジ運営審議会資料 12～13 ページに基づき説明。

委員長： ただいまの説明の中で、何か御意見等ありましたらお願いいたします。

\_\_\_委員、いかがですか。

\_\_\_委員： 現代的課題を取り扱った講座とあるのですが、具体的にはどういったものが現代的課題になるのですか。

執行機関： 年々様々な形で変化していくものと考えます。家庭教育や環境、全てのものが現代的課題になってくると考えます。そういった課題を解決していくために、何をしたら良いのか、どんな講座があるのか、私どもの方で様々なプログラムを作っているわけでございます。

委員長： \_\_\_委員、何かございますか。

\_\_\_委員： 初めてこの審議会に参加させていただいているのですが、この資料に書かれているものというのは、この会議で決めるのですか。職員の方たちで決めているのですよね。

執行機関： はい。私どもの方で決めております。

\_\_\_委員： 現代的課題というのはいろいろあると思うのですが、おそらく地域の最も大きな現代的課題というのは、自治会の加入率の低下だと思えます。町内会の加入が 50%を切って

いて、子ども会はもっと低いですよ。資料を見ますと、寿市民センターの事例が載っていますけど、少子高齢化における町内会、高齢化社会に対応する地域社会づくりという内容を学習したということですよ。これを市民に対して言うことももちろんなんですけど、そろそろ本当に役所側としてのスタンスをもっと変えていかないと、おそらくこの10年以上減り続けている町内会と子ども会の存在価値というか在り方が、抜本的に下がっていただけなんです。例えば、うちの地区は、町内会は比較的入るのですが、子ども会は入らない方が多い。それで、体力のあるうちに来年閉めちゃうということになったんです。人がいるうちにやらないと、もっと大変なことになるので。となると、地域的な最大の課題というのは、もともとの受け皿の町内会のシステムをどうしていくのかということ。子ども会はこれから減っていく一方で機能しないので。もっと言うと、学校の負担になってしまうかもしれませんが、PTAに受け皿になってもらうとか何か考えないと、この10年以上変わらず減り続けている問題は解決しませんよ、ということ、研究・開発されている皆さんに伝えておこうと思います。

\_\_\_委員： 今の\_\_\_委員の話を受けて、私自身うちの近くの地区のことを考えてみたのですが、町内会も一応存続はして活動しているのですが、非常に子どもの数が少ないと思います。小学生が登校する時間帯に通学路を通るのですが、ある一定の距離を歩くのに小学生と会う数が非常に少ない。先々どうになってしまうのだろうと心配です。また、県営の団地がかなり広い敷地であるのですが、町内会は別なんです。同じ地域にいながら接点がない。お隣の町内会になってしまうと、もっと極端なことを言えば、道路一本隔ててしまうとお互いのことを知らないんです。町内会同士のつながりが希薄になってきていると思います。これも現代的課題と言えるのではないかと思います。

それから、市民ニーズを捉えた学習機会の提供とありますが、市民が学習ということに対してどんなニーズを持っているか、どのような形で捉えているのですか。

執行機関： 市民のニーズにつきましては、学習相談という形で個人や地域団体からも問合せがありますので、その相談の内容から様々な生涯学習に関する意見やどんなことをやっていきたいのかというような希望を捉えております。例えば、市民センターの教室やクラブ、講座等を探しているということであれば、こちらから場所の提供や講座の提供、情報提供を行っております。

\_\_\_委員： 好文カレッジの枠組み全て大事なことだと思いますが、具体的な形が見えにくいのではないかと思います。例えば、市民ニーズという声が上がってくるのを待つ前に、好文カレッジ、あるいは水戸市の生涯学習に携わるところから、もっと積極的に働きかけていってもよいのではないかと思います。

委員長： ありがとうございます。\_\_\_委員、いかがですか。

\_\_\_委員： 確かに子ども会に関しては、うちの子ども会は3軒4軒で子ども会を賄わなければいけない世帯数で、町内会についても高齢化が進んでいる状況でして、市民運動会すらもどうしようかという声聞こえてくるくらいの現状です。子どもはやっぱり学校や家庭はもちろんです、地域に育てられているということもあると思うので、できるだけ離れたくはないと考えてはいるのですが、すごく離れてしまっているのが現状です。私事ですが、今、中学1年生の男の子がいます、実際幼少の頃に、ほっとひといき夢らん

どに参加させてもらっていたんですね。一人息子で周りにも子どもがいる方がいなくて、なかなかお友達ができなかったのですが、夢らんどに参加させてもらったことで、他のお母さん方と交流を図ることができて、自分の育児ストレスを発散させることができたり、いろいろなことをためこまずにお話しすることができました。今は、育メンといわれるように、父親も育児に参加される方が多くなったとは思いますが、やはりそれでも母親とは違いますし、母親の役割は大きいと思いますので、子育てについてストレスを発散できるような子育て支援を、これからももっと行っていただけたらいいなと思いました。

委員長： 皆さんから地域のつながりが希薄になってきていることが大きな課題だと意見が出されましたけど、やはり好文カレッジとして、そういう現代的課題をいろいろな方向性を持って取り組んでいくことが大きな課題になってくるのではないかと思いますので、ぜひ地域が密になるようなプログラムの開発をお願いします。

では、続いて、次の協議事項に入らせていただきます。協議事項（１）市民センター職員への支援・指導の強化について、事務局から説明をお願いします。

執行機関： 協議事項（１）市民センター職員への支援・指導の強化について、別添資料一覧に基づき説明。

委員長： ただいまの説明で、何か御意見、御質問等ございましたらお願いいたします。

\_\_\_委員： 前期の研修が終了したということですが。

執行機関： 市民センターの前期の訪問研修につきましては、今日の午前中をもちまして終了したところです。

\_\_\_委員： 各市民センターに皆さんが出向いて実施したということですよ。

執行機関： はい。3人の職員で回して実施するという形なのですが、新任の所長、嘱託員、それから2年目の所長、嘱託員については振り返り研修ということで行っております。

\_\_\_委員： その訪問なされた際に、いろんなことをその状況から皆さんでも把握なさって、もちろん課題になるものもあったのではないかと思います。共通して見えてくるものは何かあったのですか。

執行機関： 新任職員につきましては、市民センターのことにに関して何も分からない方がほとんどで、市民センターの運営のことや生涯学習の推進ということが何をしたらよいのかなど、とにかく何を質問したらよいのかが分からないような現状ですので、好文カレッジで作成しました運営資料に沿って、どういったことが職員として必要なかというところから入っていきまして、その中で働きながら生じてくる疑問点や課題を吐き出していってもらおうというような形で進めております。

\_\_\_委員： 好文カレッジを含めて生涯学習的な視点で見ていったときに、やはり地域にとって市民センターの役割って大きいですよ。例えば、住民の会の会長など、いろんな団体の長がいらっしゃって、その方々がよく集まるのが市民センターで、市民センターを媒体にしていろいろな活動をするわけですよ。それと併せて、好文カレッジで行っているような生涯学習、自由参加でできるような学習を一方でやっていかななくてはならない。もちろん地域のことも考えていかななくてはならない。そうすると、市民センターに勤務なされている職員の方にとって、ノウハウを身につけないと、先ほど\_\_\_委員さんたち

がお話しされたように、例えばニーズ、あるいは現代的課題一つとっても、市民センターにそのまま預けて、これをやってくださいと言われても、何から手を付けてよいのかわからない。そうすると、相当力量がないとやっていけない。プログラミングから始まって、マーケティングして、なおかつニーズにも応えるような講座を開設するとなると相当研修を積む必要があると思うので、できるだけそんなに何回も何回もということではなくて、職員の方の意欲を引き出しつつ、いろんなことにチャレンジしていこうという土壌づくりを皆さんの方でやっていただけると、市民センター独自の地域との関わり方や独自の講座につながっていくのではないかと思います。非常に難しいとは思いますが、ここで活性化していかないと、市民センターって既成の講座があってそこに人がいて、そこに来ない人は全く何も関わらない、というようになってしまうと思いますので、そのあたりを研修も含めて視野を広げて見ていってもらえるといいのかなと感じました。なかなか生涯学習課だけではできないことだとも思いますので、何か横断的な組織でやっていけるといいのかなと思います。

委員長：ありがとうございます。そのほかございますか。

\_\_\_委員：こうして職員の皆さんが現場の方を研修してレベルアップすることは大変良いことで、すし、地域と慣れるにも数年かかると思いますので、できれば市民センターの所長はすぐ退職されない方がいいですね。

\_\_\_委員：市民センターに来る市民の方の対応の仕方についても研修されるのですか。

執行機関：新人職員につきましては、4月に接遇や対応の仕方の研修を行っております。ただ入って10日くらいで研修をすることになるものですから、まだ右も左もわからない状況で、なかなか呑み込めないということもあるかと思いますので、今後は時期的なことも含めて年に数回行うなど検討してまいりたいと思います。

\_\_\_委員：市民センターに行く機会があるのですが、その度に思うのですが、あまり態度の良い人がいないのかなと思うんです。たまたまなのかもしれませんが、良いことをいろいろやっている所に、市民の方がもしかしたら希望や夢をもって来るわけですよね。せっかくそうやって来たのに、辛い態度で当たられたら、もう行くのをやめようと思いますよ。実際に、自分の住む地域の市民センターは態度が悪いので、違う市民センターに行くというような話も聞きますので、ぜひそういった研修も行ってもらいたいと思います。

執行機関：市民センターの所長を集めた会議を月1回行っておりますので、改めて対応の仕方についても話してまいりたいと思います。

\_\_\_委員：いろいろな講座数や回数があるのですが、これらの講師は基本的にボランティアの方が行っているのですか。

執行機関：講師につきましては、ボランティアという形ではなくて、様々なジャンルの講座がございますので、その専門の講師をお呼びして行っております。講師謝礼もお支払いしております。

\_\_\_委員：そうすると、経済的効果も見えていかないとならないかと思うのですが。講座の中身によって、会員数が非常に違ってきているようですが、だんだん一桁代になってきているようなものもあるようです。だからといって止めるということではないですが、どのように会員数、参加者を増やすことができるのか考えていくことが必要なんじゃない

かと思えます。

執行機関： 定期講座、教室、クラブのことですね。それらにつきましては、固定的な事業を数年にわたって行っておりまして、受講者が高齢になってきたということもありまして、人数が減ってきたというところも確かにございます。そういった整理課題等が生じているわけですが、ある一定期間の様子を見た中で、一般の貸出しとしてのグループ的な使い方方を促す、あるいはサークル的な誘導、あるいは人数が極端に減ってきてしまって運営が厳しくなってきた教室等については解散も視野に入れてもらう、あるいは他の市民センターで行っているものと融合するというような方法を、今後検討していきたいと考えています。

\_\_\_委員： それぞれの市民センターで自由に閉講など行うことができるのですか。

執行機関： はい。募集をしたけれども人が集まらなかったというような理由で、スタートしたものであっても中止にする講座もございます。年間を通して10～20講座くらいあります。それは市民センターから連絡を頂いて、好文カレッジで随時ホームページを更新してお知らせしております。

\_\_\_委員： そうすると、先ほど提案がありましたように、人数が少なくなってきて運営が厳しくなってきた、どこかとどこかの市民センターの講座を併せて運営するというような協議もなされるのですか。

執行機関： はい。市民センター同士で連携して協議がされていた時期もあったのですが、市民センター職員の嘱託化、人員減ということを受けて、連携したシステムの構築がなかなか引き継いで行えていない現状にありますので、今後再考をしてみたいと考えます。

委員長： それでは、皆さんよろしいでしょうか。

続けて、協議事項（2）さきがけ塾第四期生の募集について、事務局から説明をお願いします。

執行機関： 協議事項（2）さきがけ塾第四期生の募集について、別添資料一覧に基づき説明。

委員長： ただいま、事務局から御説明がありました。何かございますか。

先ほど人がなかなか集まらないというようなお話がありましたけれども、それに関しては、時間帯がどうだとか内容がどうだとか会費がどうだとか、今までやってきた中で様々な要因が考えられるかと思いますが、より市民の皆様に参加してもらえるように、今後どうしたらよいか、何か委員さんで御意見あればお願いします。

会費についてはどうなっているのですか。

執行機関： 会費につきましては、今までは年間5千円の会費を頂戴しておりましたが、今回検討いたしまして、年間4千円の会費を頂戴する予定でございます。千円減額した形で設定しております。主に資料代となります。

\_\_\_委員： よく分からないのですが、「さきがけ塾」というのは、どういう方を対象としているのですか。いくつくらいの方を対象にして募集するのですか。

執行機関： 先ほども申し上げましたが、18歳以上の水戸市内に居住、通勤通学している方を対象としておりまして、いくつまでというふうには設定しておりませんので、18歳以上の方であれば応募できます。

\_\_\_委員： 講習の内容は、全部の年代を対象としてプログラムされているということですか。

執行機関： はい。そうです。

\_\_\_委員： これを受講し終わると、その後どうなるのですか。

執行機関： 学習期間が2年間あるのですが、1年次と2年次に別れていまして、1年間に19の講座を設けており、これらを7割以上受講した方に、希望があれば生涯学習サポーターとして登録していただく形となっております。将来的には、生涯学習サポーターとして行政と協力しながら、市民の皆さんがまちづくりに参加できるような講座を企画運営していくことになります。

\_\_\_委員： ということは、最終的にはサポーターを育成するためのものということですか。

執行機関： そうですね。生涯学習サポーターチャレンジ講座という名称でもありますので、サポーターを目指す2年間の継続講座となっております。

\_\_\_委員： このチラシなど内容を見ただけだと、誰がいて誰がどうするのかがよく分からない感じなので、そういったことをはっきり言ってしまったほうが集まりやすいのかと思いました。

執行機関： はい。分かりました。

委員長： 今の第3期生については、年齢構成はどうなっていますか。その後サポーターになれる方はどのくらいいるのですか。

執行機関： 第3期生については、まもなく終了してサポーターとして登録していただくわけですが、ほぼ60代、70代の方でして、高齢の方が多くなっています。終了予定の方が15名いまして、そのうち10名くらいサポーターとして登録していただける見込みとなっております。

委員長： 将来地域のリーダーとなって活躍されるような方が参加されているわけですね。

執行機関： 様々な方がおまして、学校の教員をやられていた方や実際に民間で働いている方、NPO法人の団体の方などもいらっしゃいます。若い方の申込みが非常に少ないというのが現状としてありますので、将来的に若い世代をどうやって取り込むのが課題だと考えております。

\_\_\_委員： 以前、プレゼンテーションを拝見しました。若い方もいることはいるのですが、高齢の方がほとんどですので、若い方が圧倒されてなかなか発言できないような感じを受けました。人数がもっとたくさんいれば違ってくるのかもしれませんが。世代別で分けて違うテーマに取り組んでみることは考えられませんか。1つのテーマに全ての世代の方が取り組むとなると、方向性も違ってくるでしょうし、学校を卒業したばかりの20代の方などは気後れして発言しにくいこともあるでしょうから、何か工夫することが必要かと思います。大きなテーマとしてのひとづくり・まちづくり、生涯学習サポーターの育成というのは変える必要はないと思いますが、相手方によってテーマは変え得るものであって、最終的には自分たちの空間をつくっていくことですね。その時に、若い方たちの考えを生かせるような方法を考えていくことが大事かと思います。今後更に若い方たちの力は必要になってくると思いますので。

\_\_\_委員： 今後の見方を検討する必要があるということですね。

\_\_\_委員： 説明にあったかもしれませんが、もう一度募集の仕方を教えていただけますか。

執行機関： 募集に関しましては、「さきがけ塾」の要項を市民センターなどの公共施設に置かせ



ていただいて周知するほか、ホームページやフェイスブックなどを使って「さきがけ塾」が一体どんなものなのか、情報を提供してまいりたいと考えております。前回の第3期生募集の際には、サポーターや塾生の方々がNHK水戸放送局に出向いて募集を呼びかけました。

委員長： このチラシが募集案内になるのですか。

執行機関： これはまだ正式に出来上がったものではないので、カラーなどは変わってきます。

委員長： 市民の方々は、「さきがけ塾」と言ってもぱっと理解できないのかなと思いますので、募集をかける際には、このチラシをもっとさきがけ塾の目的「水戸のひとづくり・まちづくりに参画し社会貢献しませんか」ということが分かりやすくなっているといいのかと思います。

\_\_\_委員： そもそも私は、生涯学習サポーターの方々が何をやられているのかがいまいち分かりません。ということから考えていただかないと、市民の皆さんもいきなり「さきがけ塾」と言われてもどうしようもないのかと思います。

執行機関： 分かりました。

\_\_\_委員： 「さきがけ塾」を2年間受講して終了した方が、修了証か何かをもらってそのままサポーターになるのですよね。

執行機関： そのままというわけではないのですが、「さきがけ塾」の講座を7割以上受講した方でサポーターを希望すれば登録という形になっております。

\_\_\_委員： 第1期生、第2期生の塾生でサポーターに登録された方が、どれだけ市の事業に貢献されたのかが分かるようなデータはありますか。

執行機関： 具体的には作成しておりません。

\_\_\_委員： サポーターになって何かの講座に活用された方もいるかもしれないし、もしかするとサポーターになっても全く音沙汰なしという方もいるかもしれないということですか。

執行機関： 好文カレッジとサポーターの協働事業を企画運営しております。

委員長： そうすると、地域のリーダーを養成するというよりは、生涯学習の講座を開催するということが目的となるわけですか。

執行機関： 目指すところで言いますと、市民センターの生涯学習講座にサポーターの方が入り込んでいって、協働で実施できるようになっていけたらと考えております。

委員長： そうしますと、サポーターの登録名簿か何かは好文カレッジで作成してあって、何か要望等があった時に呼びかけて集めるということになるわけですね。

\_\_\_委員： そうすると、先ほど\_\_\_委員さんがおっしゃったように、ある程度はっきりとそういった情報を打ち出して、あなたも水戸市の行政に参加できますというようなインパクトある言葉でプレゼンしていったほうが、興味ある方の目をもっと引くのではないかと思います。あとは、学生の方でもすごく良いアイデアを持っていて力のある方がものすごくいらっしゃいますから、そういった方たちを取り込んで、いかに有効に活用していくか、育成していくかを考えていくことが必要かと思います。かといって、高齢の方をないがしろにするわけではありませんが、高齢の方は高齢の方で興味あるものをその経験を生かして、より良いものをつくっていかれると思いますし、その年代ごとで目指す方向性も違って見えてくると思いますので、年代別に分けて考えていくのも、水戸を活気

付けていくには非常に良い方法なのかと、皆さんの意見を聞いていて思いました。

執行機関： 募集に向けて、皆さんから非常に良い意見を頂きました。いかにして若い世代の方を取り込むか、私どもの方でも考えていきたいと思えます。

委員長： 時間を過ぎてしまったのですが、その他のことでもよいので、何か聞いておきたいこと、言い足りなかったことなどありましたらお願いします。

\_\_\_委員： 子育て支援のことについて、少し話に出ましたが、子どもたちと生活を共にしていく中で今感じていることは、非常に孤独感といいますか、一緒に生活をしているような感覚が持てない御家庭が多いと感じています。自治会に入らないというのもそうなんですけど、何かポリシーがあって入らないというわけではなくて、いろいろな関係づくりがうまくできなくて入らない方が大勢いるのですね。特に、子育てをしているお母さんたちで、もともと地域にいて仲間のいるお母さん方なら問題ないのですが、そうじゃない方もたくさんいて、そういう方たちというのは孤立している場合が多いので、市民センターやその他でも子育ての講座を開催してもらえると、申込みして参加してくれるのも事実です。その来てくれる人たちを活用して、来られない方たちへのアプローチができるような企画運営を、好文カレッジを中心に考えていただければ、すごく水戸市の財産になるのではないかと思いますので、何かの折に、そういったことも話題にして取り組んでいただければ良いのかと思います。

委員長： その他何かございますか。

なければ、以上で、本日本日予定された議題を終了しました。

委員の皆様には、貴重な御意見を頂き、また、議事の円滑な進行に御協力を頂きましてありがとうございました。